

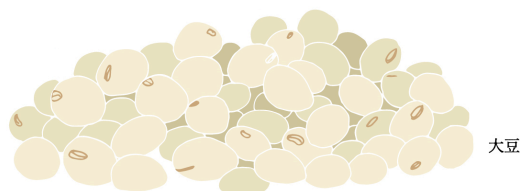
＼手前みそ作り、今年も盛り上がってます！ みそ作り素材、今週でシーズン終了！

常総生協では2010年より、地元守谷市のみそ屋「やまこみそ」さんに、商品到着後すぐにみそ作りができるようにと「蒸し大豆」の製造をお願いしています。茹でるのはコツも時間もかかるので手軽な「蒸し大豆」は年々人気上昇中。昨年も今年も「蒸し大豆」の利用率が全体40%を超えるほどになりました。

また、味噌づくりに欠かせない、やまこみそさんの「米こうじ」も今シーズン最後の注文週です！

作ろうかなとお悩み中の方、意外と簡単にできちゃう味噌づくりに挑戦してみませんか？

(みそ作りのレシピをご希望の方はご意見欄もしくは組合員問合せフォームへご連絡ください)



大豆

30 米こうじ 1kg <特> 税込1078円 通常税込税込1102円

515 地場の有機大豆 1kg 税込 994円

516 地場の有機大豆 2kg 税込1944円

517 蒸し大豆 乾豆1kg分 税込1296円

518 蒸し大豆 乾豆2kg分 税込2548円

608 沖縄の塩シママース1kg 税込410円

セット商品 大豆1kg・こうじ1kg・塩1kgのセット (塩は必要分だけご使用ください)

519 みそ作りセット (乾大豆・米こうじ) 税込2376円

520 みそ作りチャレンジセット (蒸し大豆) 税込2700円



↑公民館で
みそ作りワークショップ



今年も各地で「みそ作りワークショップ」をはじめ、↓幼稚園で味噌開き
出張食育講座、出張みそ作り講座を開催！
味噌作りの輪が広がっています
開催報告はまた後日♪



2025年2月・3月の予定

○生協基幹運営/地域活動・催し●

○「常総っ子応援団」in流星台プレイパーク: 毎週木曜日 10～14時活動中です！(出入り自由)

2/27(木)みそ作り@モンテッソーリつくば

2/28(金)脱原発と暮らし見直し委員会

3/7(金)みそ作り@阿見(不登校から考える親子の会わたり)

3/10(月)守谷社協・みそ作り@守谷

3/15(土)鈴木牧場見学交流会

3/22(土)ランカスター紅茶学習会

○提携・協同・連帯企画●

3/8(土)さようなら原発@代々木公園集会

3/8(土)「3・11甲状腺がん子ども基金」シンポジウム@いわき市 & zoom

～各種募金は、下記【注文番号】で、毎週受付しております。ご協力をお願い致します～

★【注文番号: 500251】東海第二原発差止訴訟基金 1口500円

★【注文番号: 500252】関東子ども健康調査支援基金 1口1000円

★【注文番号: 500253】被災地等を支援する【JOSOたすけあい基金】 1口500円

★【注文番号: 500254】JOSO脱プラ基金 1口500円

★【注文番号: 500255】鈴木牧場・新牛舎応援基金 1口500円(期間: ~2025年3月4回まで)

★【注文番号: 500256】脱原発と暮らし見直し委員会「12年のまとめ」の印刷カンパ 1口200円

★【注文番号: 500257】岩瀬牧場・養豚基金 1口500円(一次締切: ~2025年4月5回まで)



第12回 臨時理事会 開催報告

日時 2月9日(日)14～18時
場所 生協本部 組合員活動室
出席 理事7名・監事4名

- 【第1号議案】岩瀬牧場への生協支援について →承認
【第2号議案】2025年度の活動テーマ(案)について→承認
【第3号議案】2025年度の活動方針(案)について→継続審議

次回理事会の予定
2月22日(土)
13時～15時
※傍聴希望の方は
予めお知らせください

資材や繁殖用の豚の購入のため「岩瀬牧場・養豚基金」で寄付を呼びかけ中です。たくさんのご支援をお寄せ頂き、誠にありがとうございます。しかしながら、岩瀬牧場の運転資金そのものが大変厳しく、その寄付とは別に、支援が必要な状況です。どこに問題があるか一緒に原因を分析し再建計画を作りました(2028年度中に黒字化を目標)。それを元に話し合い、生協が生産者と協同して活動する試みとして始まった原点を踏まえ、立て直すための支援(資金貸付)をすることとなりました。

また、2025年度の活動テーマ案は『いまこそ協同の「わ」～命はぐくむ食でつながろう』となりました。私たちの原点にもどって、協同のわ(和・輪)で繋がっていききたいという想いを託しています。

2025年度は各参画プロジェクトを組合員に呼びかけチームを作り部活のように楽しめるよう、活動内容案を話し合いました。春の討議資料でお伝えできるよう準備中です。

毎月はじめ「1の回」は(今月は2の回) 岩瀬さんの豚肉特集！

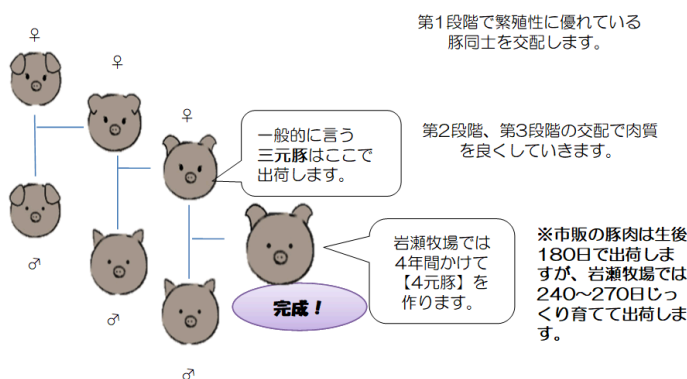


母豚を増やして安定出荷を目指します！



岩瀬牧場では一般市場で主流となっている豚の品種(LWD)ではなく、複数の品種を掛け合わせたオリジナル品種の豚を「岩瀬さんの豚肉」として組合員の皆さんにお届けしています。現在、出荷頭数を増やすべく、母豚の更新・増産に取り組んでいます。この間、母豚の更新作業がうまく進まず、頭数も減ってしまいました。生産体制を安定させるため、高齢の(出産回数が多い)母豚の入れ替えを目的に作業を行っています。

～岩瀬牧場の豚～『4元豚』で美味しい豚肉に♪



新しく母豚を作るという作業は大変なのはもちろんですが、とても神経を使います。母豚候補として生まれた子豚が万が一死んでしまえば、また新たに交配を行い出産させる事となり、それだけで半年以上時間が余計にかかってしまいます。その為、生まれた子豚の管理など現場では常に神経を張り巡らせ、生まれた子豚が順調に生育するよう大切に育てています。

豚は生まれてから種付け(母豚として交配ができる)までに約1年ほど期間がかかります。メインとなる母豚の生産は、第2段階の豚を交配させる所からの取り組みとなるため、一般市場で主流となっている、三元豚よりも出荷に反映されるまで1年ほど

期間が長くなります。言い換えればその期間分、実際にお肉として出荷する豚の生産(販売できる豚が出来上がるの)が遅れるという事です。それでも、自信を持って届けられる美味しい豚肉を出荷したいという想いから、敢えて手間のかかるオリジナル品種にこだわって生産を続けています。

直近では、昨年(2024年)の1月に生まれた母豚候補の豚がようやく交配適期を迎え無事に種付けが終わり、新たに3頭が母豚としてデビューしました。実際にそこから生まれた豚が最終的に出荷できるようになるのは来年(2026年)の1月頃になります。手間も時間もかかり根気も必要ですが、少しずつ確実に生産体制を安定化させていきますので、引き続き岩瀬牧場と岩瀬さんの豚肉への応援よろしくお願いしますm(__)m(牧場担当職員・横関)

【中間報告】「岩瀬牧場・養豚基金」に引き続きご協力をお願い致します

1月2回のニュースレターで立ち上げました「岩瀬牧場・養豚基金」ですが、2月15日時点で1245口622,500円が集まりました。本当にありがとうございます。岩瀬牧場ならびに岩瀬さんの豚肉への応援に心強く思います。

皆さんからご協力頂いた基金を元に、牧場スタッフ中心に、**井戸の修理**と**エサ製造用攪拌機の修理**の準備に入ることができました。感謝申し上げます。目標金額にはまだ届きませんので引き続き「岩瀬牧場・養豚基金」へご協力を頂けますと幸いです。どうぞよろしくお願い致します。(専務理事 柿崎洋)

注文用紙6桁欄に【注文番号】と【口数】をご記入ください。

番号【500257】 岩瀬牧場・養豚基金(第一次)

■目標金額：130万円(右記①②③の合計金額)

■1口：500円 ■期間(1次締め切り) 2025年4月末日

急ぎ修繕や購入が必要な事項は、以下の3点です。

- ①豚の飲み水用の井戸のパイプ交換とポンプ洗浄費用(現在水の出が悪く、人力で水を運んでいます)
- ②発酵飼料を作る攪拌機の修理(部品の交換が必要です)
- ③原種の親豚(雄・雌)の購入(高齢化の為更新が必要です)

ALPS処理汚染水の海洋放出開始から1年半が経ちました

○放出量は累計78,285㎡

2023/8/24から海洋放出を始めた福島原発のALPS処理汚染水※。

「関係者の理解なしにはいかなる処分も行わない」と文書で約束していたにもかかわらず、地元漁協連の反対を無視して、政府が決定し東京電力が実行したものです。右図の通り2024年11月4日時点で10回の放出を行い、累計投棄量は7万8千285㎡です（＝約78万トン）。今後も放出は続きます。

※ALPS処理汚染水：溶け落ちた核燃料（燃料デブリ）が残る原子炉建屋などに雨や地下水が流れ込むことで増え続ける汚染水を、「多核種除去設備」（ALPS（アルプス））などで除去可能な放射性物質を除去した水。除去できないトリチウムなどの放射線核種が残存している。



○常総生協生産者の会有志が経産省と東電へ「海洋放出の即時中止」を申し入れ

2023/8/28、生産者の会の鈴木牧場鈴木さん、ケイミー青木さん、そして日本有機農研の魚住道郎理事長と職員柿崎で経産省と東京電力を訪問。「環境や生き物を汚染し生産現場を無視する”放出”は、即止めてください」とする要請書を手渡し、申し入れをしました。しかし、経産省と東京電力は「基準値以下の濃度に希釈するので大丈夫」と繰り返すばかりでした。

ALPS処理汚染水差止訴訟ニュース「海風」より転載

ALPS処理汚染水の海洋投棄状況		
回数	投棄期間	投棄量【㎡】 (累計)
2023年度 1～4回目	2023年8月24日～2024年 3月17日のうち76日間	31,145 (31,145)
5回目	2024年4月19日～5月7日	7,851 (38,996)
6回目	2024年5月17日～6月4日	7,892 (46,888)
7回目	2024年6月28日～7月16日	7,846 (54,734)
8回目	2024年8月7日～8月25日	7,897 (62,631)
9回目	2024年9月26日～10月14日	7,817 (70,448)
10回目	2024年10月17日～11月4日	7,837 (78,285)

※2024年11月4日現在

○漁業関係者と太平洋沿岸住民による「ALPS処理汚染水裁判」が始まっています

海洋放出直後の2023/9/8に福島地方裁判所へ提訴された「ALPS処理汚染水放出差止訴訟」は、漁業関係者と沿岸にある近県住民を合わせて363人が原告となっています（私も原告の一人です）。2025年1月21日福島地方裁判所で行われた「第3回口頭弁論」を傍聴してきたので報告します。

・永田麻衣子弁護士は、1996年締結された「ロンドン議定書」に基づき、原子力委員会が「今後、低レベル放射性廃棄物の処分方針として、海洋投棄は選択肢としない」とした方針に反することを論じ、テニアン島の元議員ワニータさんのメッセージと共に海洋投棄反対を訴えました。

・吉村和貴弁護士は、被告である「国」が「原告は原告として不適格である」とした前回の弁論への反論として、「ALPSによる浄化処理」「処理後のタンク貯蔵の実施計画」が原子力規制委員会によって「災害防止上十分」として認可されても、汚染処理水を海洋放出することまで「災害防止上十分」とは言っていない。ましてやALPSは汚染水に含まれる全ての放射線核種を除去する性能がない。計画が「認可」されたことをもって原告にとって「災害の防止上十分」回避されたとは言い難く、原告適格を判断することはできないと訴えました。

・魚住道郎さんの原告陳述の内容は大きく2つで「55年前に有機農業を始め、現在まで実践してきた理由（ア・イ）」と「処理汚染水を海へ流すべきでない理由（ウ・エ・オ）」です。深く胸に残ったので詳しく報告します。

ア）戦後の近代化・工業化の思想は、汚染物質は大気に拡散させ、川や海に流し、希釈して濃度を下げれば良いという時代。全国各地で公害が発生し、四大公害病の熊本水俣病、新潟水俣病、川崎ゼンソク、四日市ゼンソクなど、健康被害が地域住民を苦しめた。解決のため1970年代から濃度規制から総量規制や予防原則の時代に大きく変化してきた。

イ）農薬のDDTやBHCが母乳から検出され、毛髪からは水銀が検出され、毒性の高いパラチオンなどによる中毒事故で亡くなる農民も出た時代。1971年創薬取締法改正で残留性の高い有機塩素系農薬は使用禁止、水銀剤も製造中止となった。➡このままでは次世代の命の健全性が危ういという危機感から、農薬や化学肥料を用いなくとも作物や家畜が健康に育てられる有機農業を実践・研究・模索することに。

有機農業によって自然環境は豊かに循環する。針葉樹と広葉樹が適度に混じる豊かな森で、落ち葉などが腐食（腐食とは、生物や微生物の遺骸、分解残物によって生成された高分子の難分解性の有機物を言う）を雨水が通過することで、ミネラル豊富な地表水や地下水が生まれる。その地表水は湧き水となり川を形成し、田んぼの動物や昆虫、プランクトン、微生物を育てる。里の田畑で有機農業を行うことで生成された腐食やプランクトンは、更に海に流れて海藻やプランクトンを育て、魚の産卵場となり小魚の生育する藻場を豊かにし、生物多様性に満ちた環境をつくる。

ウ）放出されたトリチウムが生物や微生物体の構成要素の一部に有機結合トリチウム（OBT）として取り込まれてしまうと、生物濃縮を経て生態系に大きな障害が出る可能性があることを分子生物学者の河田昌東氏が警告している。

エ）私達の命は、森や田畑や川や海に生きている動植物の命をいただくことで太古の昔から繋いでいる。森里海の命は私達の命そのもの。その生命に歪みが出れば、私達の命にも歪みが生じる。この命の循環の輪に生命の存続を脅かす物質が入り込み、拡散すれば、回収は不可能。過去に、水俣湾に捨てられた水銀がプランクトンからゴカイや魚、貝に生物濃縮し、それを食べた猫やカラス、そして人に水俣病が発症したことを忘れてはならない。

オ）原発を設置する際に国と事業者は、事故がおきたら「止める・冷やす・閉じ込めるが大原則」としてきたはず。トリチウム汚染水を陸域に留め置き、閉じ込めることで、海洋汚染を防ぐことができる。今からでも遅くない。他の方法を探ってもらいたい。（報告：職員 木本）

無料

命と生活をまもるための

生活相談会

4月13日(日) 14:00~16:00

会場: つくば・市民ネットワーク事務所

つくば市二の宮2丁目1-3 クラフトビル1階
(ウラ面に地図 ↓)

さまざまな公的支援があります。
気がねなくご相談ください。

当日はお茶とお菓子を準備しています。
また、お米・食料品はじめ日用品など
寄付による物資もあります。
お気軽にお立ちよりください。

連絡先: 生活困窮ささえあい茨城

でんわ: 029-859-0264

メール: tsukubahotnet@ybb.ne.jp

※「生活困窮ささえあい茨城」とは…
つくば市内で生活支援を行っている有志団体(浅色の雲の会、つくば
子ども支援ネット、つくば・市民ネットワーク)で構成し、2021年~
生活相談会の開催・生活支援・生活保護申請の同行支援を行っています。

主 催: 生活困窮ささえあい茨城
協力団体: 常総生活協同組合
生活クラブ生活協同組合

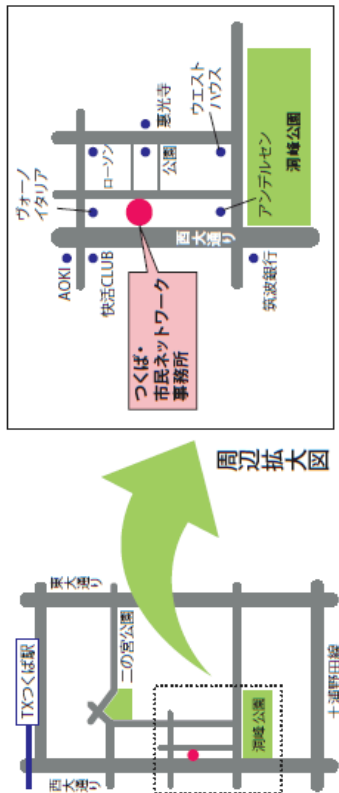
カンパや物資の支援も
お待ちしております！

消費期限内の食料品類、日用品、
衣類など集めています。
銀行口座への振り込みも受け
付けています。

常陽銀行口座 104-4032972
生活困窮ささえあい茨城
(セイカツコンキョウサエイアイバラキ)

基本的に物品のご寄付は、直接会場の事務所へご送付ください。無理な方は生協までご相談ください。↓

2025年4月13日生活相談会 会場はコチラ↓



ご寄付にご協力ください！

皆様のご寄付は、生活困窮の方々への食糧、生活必需品、緊急で住まいを借りる際の
ガス契約保証金や移動時の交通費・通信用のリスタート携帯など、様々な生活支援
及び費用立替えに使わせていただいています。困窮した一時を乗り切ること、生活
再建に向かえるケースも多く、公的支援が届かない方々の大きな支えになっています。

【寄付金】 ★銀行口座への振り込みは下記口座にお願いいたします。

常陽銀行 研究学園都市支店 普通 4032972

口座名義: 生活困窮ささえあい茨城 (セイカツコンキョウサエイアイバラキ)

【食品】 米、レトルト、缶詰、乾麺、乾物、乾物、即席スープ、
インスタントコーヒー、菓子類など

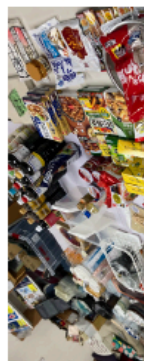
★賞味期限が 2025年5月以降 ★未開封 ★常温保存可能

★お米は2024年度産以降、精米は1か月以内に精米したものの

【食品以外】 一人暮らしの生活を再スタートさせる時の日用品

(食器、調理用具、布団類、洗剤、トイレトペーパー、学用品、衣類など)

★食器・調理用具・布団類は使用可能なもの、その他は新品・未使用のもの



※ご不明な点は生活困窮ささえあい茨城事務局(電話029-859-0264)へご相談ください。